

平成25年2月6日に県主催(運営:一般社団法人
SAVE TAKATA)で開催した「NPOと企業とのパ
ートナーシップ東京交流会」(新しい公共支援事業)の様
子。岩手県のNPO法人や首都圏の企業計100名超
が参加し、連携のパートナー探しを行った。



02 | NPO・ボランティアで、頑張る人 -03 | 情熱人! [第2回]

…「深澤晟雄の会」
副理事長/佐々木 孝道 さん

04 | 団体の、活動パワーを紹介する -05 | おらほのちから [第2回]

…「胆沢区愛宕地区振興会」
会長/阿部 市郎 さん



深澤晟雄が村長時
代に使用していた
執務机



「弘法の枕石」
引き揚げ作業



アジア民族造形館・
第1展示場の「南部
曲がり家」

06 | 県からのお知らせ 07 | お知らせ

…NPO活動交流センター
岩手県社会福祉協議会
ボランティア・市民活動センター

08 | 団体の、活動ノウハウを公開する 活動なう [第2回]

…「アジア民族造形館」
岩手県野田村 教育委員会事務局
生涯学習文化班 総括主査/小谷地 鉄也 さん

2012
vol.3

2013年2月発行

「人間の尊厳・生命尊重こそ政治の基本である」

NPO法人「深澤晟雄の会」

副理事長 佐々木 孝道さん

全国に先駆けて老人医療費の無料化に踏み切り、乳幼児死亡率ゼロを実現した旧沢内村長深澤晟雄を顕彰して、地域づくりへ貢献することをめざしているNPO法人「深澤晟雄の会」。副理事長の佐々木さんに、その活動について話を聞いた。



深澤晟雄元沢内村長の肖像と佐々木さん

佐々木 孝道さん プロフィール
平成19年「深澤晟雄の会」発足後、整備工場で働きながら、副理事長として活動している。平成20年に開館された、「深澤晟雄資料館」の運営にも携わっている。



● 村長時代に使用していた執務机

● 組織が立ち上がった経緯

平成19年頃に「いのちの作法」という、深澤晟雄元沢内村長を描いたドキュメンタリー映画が撮影された。拝金主義がはびこる今の世の中、生命を尊重する深澤元村長の姿がクローズアップされた。私は、深澤村長の時代に助役をしていた佐々木吉男さんと同じ地区に住んでおり、若い頃から、深澤元村長の色々な話を聞いており、「生命尊重の理念」に深い感銘を受けていた。

平成17年11月1日に、沢内村は湯田町と合併した。沢内村はもとも農業の町であり、湯田町は観光の町である。合併すれば、「生命尊重の理念」を掲げた深澤元村長の理念が薄らいでしまうのではと考えた。そのため、何としても深澤元村長の理念を後世に伝えるべく、NPO法人「深澤晟雄の会」の発足及び「深澤晟雄資料館」の設立を真剣に考えた。

● 資料収集

当時、深澤元村長と行動を共にしたほとんどの人は70歳、80歳以上の高齢となっており、資料も少なくなってきたため、今すぐ行動に移さなければ駄目だということで、平成19年にNPO法人「深澤晟雄の会」を立ち上げ、理事長には深澤元村長時代に教育長をしていた太田祖電さんが就任した。深澤元村長の理念を継承するための遺品等、関係する資料を収集したものを保存、展示するメモリアルホール（資料館）を造るためにも、NPO法人「深澤晟雄の会」を設立する必要があった。

たまたまその時期に、「いのちの山河」という映画や、NHKのテレビ番組「その時歴史が動いた」で深澤元村長が取り上げられた。同テレビ番組は、それまで、主に織田信長や豊臣秀吉などの戦国武将が取り上げられていたが、現代の

に2、100万円の資金を調達することができた。資料館の建物は、旧沢内病院の看護婦さんの寮（豪雪モデル住宅第一号）となっていたもので、これを改築して資料館として使用している。

● 深澤晟雄元村長の功績

深澤元村長は、もの凄く能力の持ち主で、東北大学の法文学部を卒業し、村に帰ってから教育長・助役を経験された後、村長になった。村は、日本有数の豪雪地帯であり、冬季は陸の孤島となってしまう。深澤元村長は、憲法25条にのっとり、法律で訴えることで現状を変えようとした。

昭和29年に教育長、昭和31年には助役に就任後、昭和32年に、第18代沢内村長に当選し、「豪雪・多病多死・貧困」の三悪追放を目指した。一例としては、住民からしらすきがい沙汰にみえたと思うが、昭和33年、豪雪を克服するため当



顕彰碑

顕彰碑文（深澤晟雄氏業績）

沢内村の自然は美しい。然し、冬季は厳しい豪雪のため原始社会に還り交通はもとより、産業も文化も麻痺状態に入り、しかも、生命を維持する最低の医療手段さえ失う生活を余儀なくされた。昭和三十一年深澤晟雄氏村長に就任するや、理想高く正義感の強い氏は、この自然の猛威を克服することを悲願として奔走、ついに村と県都盛岡まで冬季交通を確保し、特に医療行政において老齢者、乳児に対する国保の十割給付を断行、村民の平均寿命の延長、乳児死亡率率零の金字塔を打ち樹てたことは村史に銘記すべき不滅の業績である。六千村民氏の輝かしい偉業を受け継ぎ、更に本村の発展と飛躍を期し「村民の道標」として、茲に氏の肖像を建立永く記念するものである。1966（昭和41年）9月建立



● 西和賀文化が誇る三味線に尺八、唄、踊り



● 横田中学校仮設住宅での交流

お寿司。おにぎり作りには横田中学校仮設住宅の女性10人が参加し、「おにぎり交流」で絆を深めることもできた。舞台では、「さわうち太鼓」が好評を博し、西和賀文化が誇る三味線に尺八と唄・踊りも喜んでもらえた。「沢内さんさ踊り」では、仮設住民も参加して会場には「復興の絆の輪」ができていた。山中紅



● 老人医療無料診療発祥の地「記念碑」



● いのちの館「深澤晟雄資料館」

人物では深澤元村長が初めてだった。そのためか、世の中が深澤元村長のような人物を求めているかのような風潮が高まっていった。

● 行政との連携

「深澤晟雄の会」立ち上げ当時、深澤元村長の資料を収集したり、資料館を造ることを同時進行しながら、役場へ相談した。その頃、深澤元村長の妻が亡くなり、遺族の方から遺品等全てを提供して頂くことができた。

資料館設立の、肝心のお金については、役場等と相談した結果、かなりの好感を示して頂き、日本宝くじ協会の助成を受けることができた。結果、平成20年4月

● 今後に向けての抱負

全国各地には、深澤晟雄の根強いファンが居るものの、県内に住む方で、深澤晟雄という人物を知っている人が少ないのが現状である。宮沢賢治や石川啄木と言え、県内外を問わず、かなりの方々が知っている。政治に命をかけた、「生命尊重」の理念を抱いて生きられた、「深澤晟雄」という人間をもっともっと沢内の方々に知って頂きたい。経済的な豊かさというものは、何かのきっかけであっさりともすぐに崩れ去ってしまう。東日本大震災の津波の被害にしても、その最たるものである。健康で長生きするということを一番に考えた、「生命の尊重」を最も大切な理念として後世に伝えていきたい。今後も、全国規模で色々な発信をしていきたい。

「深澤晟雄」の功績を後世に伝えていくためにも、功績を顕彰する「深澤晟雄資料館」維持経費をなんとか確保し、皆さんの協力を得ながら頑張っていきたい。

深澤晟雄資料館

住所：〒029-5614
岩手県和賀郡西和賀町
沢内字太田 2-68
TEL：0197-85-3838
FAX：0197-85-3838



○部分：隆起部



●「弘法の枕石」・お地藏さん等住民達の想いが詰まった石



●「弘法の枕石」引き揚げ作業



●ダム湖底から姿を現した「弘法の枕石」

弘法大師（空海）が於呂閉志神社（奥州市胆沢区若柳）を訪れた際、横になり、一夜の休息を取ったとされる「弘法の枕石」が、石淵ダムの湖底から引き揚げられた。地域住民の長年の想いにより、ようやく実現された。阿部さんに引き揚げ実現への想いを聞いた――。

団体の、活動パワーを紹介する
おらほの
ちから
第2回

地域住民の “想い”かなう

「胆沢区愛宕地区振興会」
会長 阿部 市郎さん



「弘法の枕石」除幕式

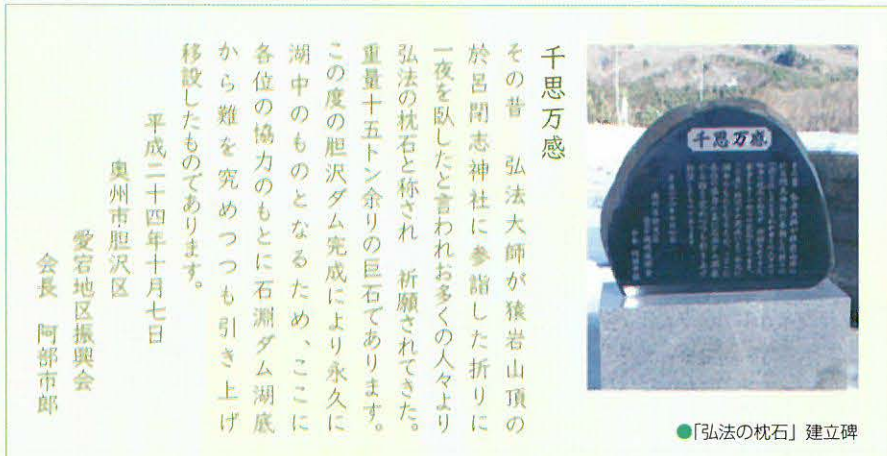
熱い想いが綴られている。

○「弘法の枕石」及び建立碑の除幕式

10月7日（日）、市道谷子沢大平野線の展望広場で、「弘法の枕石」及び建立碑の除幕式が盛大に行われた。建立碑には、引き揚げ及び移設作業の達成に尽力された、「胆沢区愛宕地区振興会」会長・阿部市郎さんの「千思万感」という、



「弘法の枕石」移設場所・ルート



●「弘法の枕石」建立碑

千思万感
その昔、弘法大師が猿岩山頂の於呂閉志神社に参詣した折りに一夜を臥したと言われおおくの人々より弘法の枕石と称され、祈願されてきた。重量十五トン余りの巨石であります。この度の胆沢ダム完成により永久に湖中のものとなるため、ここに各位の協力のもとに石淵ダム湖底から難を究めつつも引き上げ移設したものであります。

平成二十四年十月七日
奥州市胆沢区
愛宕地区振興会
会長 阿部市郎

古くから、地域住民達から心の支えとされており、胆沢町となる前の若柳村と言われた当時は、村社とされていた。猿岩の頂上には、弘法大師が道中の安全を

○於呂閉志神社とは

今から1200年程前、当時40歳位だった弘法大師（空海）が、於呂閉志神社の奥宮を参拝した折りに、仙北街道の長い道中での安全祈願をした。その際、ちょうど頭に当たる部分に枕のような、縦15センチ、横38センチ程の隆起のある、大きな平たい石で一夜を臥したと伝えられている。

○「弘法の枕石」の由来



●「愛宕地区振興会」会長 阿部市郎さん

阿部 市郎さん プロフィール

長い間、愛宕地区振興会の理事、副会長を務め、平成20年より、愛宕地区振興会会長となる。現在も、会長として地域振興のために精力的に活動している。

○引き揚げから移設への働きかけ

祈願した奥宮があり、「弘法の枕石」はそのすぐ下にある。現在でも、住民にとっては心のよりどころとなっている。

石淵ダムの湖底には、60年余りの間、「弘法の枕石」はもとより、お地藏さんや、山の神等、地域住民の想いが詰まった、歴史ある様々な石が水没してきた。「地権者の会」及び「仙北街道を考える会」も、これまで、国土交通省や市の方へ枕石の引き上げ及び移設の要請をしてきたがかなわなかった。後に、「胆沢区愛宕地区振興会」も要望書を提出してきたが、枕石の学術的な裏付けがないこと、予算的にも難しいということもあり、行政上認められなかった。そこで、同振興会の働き掛けで地域住民の協力も得て、大々的に、枕石の引き揚げ及び移設運動をする運びとなった。

○「弘法の枕石」の引き揚げ及び移設作業

石淵ダムは、年に1回、保守点検のためにダムの水を干す。その時に「弘法の枕石」が顔を出すため、地域住民は、遠目に見るか、ダム関係者等から許可を取り付けた上で、近くへ見に行くことができる。その際、枕石の大きさや重量等の調査をすることができた。全体を測量した結果、縦2メートル、横4.8メートル、深さ1メートルで、枕部分は縦15センチ、横38センチ、重量約15トンであることが分かった。

9月7日、12月から始まる胆沢ダムの試験湛水の前に、地域住民の見守る中、

○「弘法の枕石」へのこれからの想い

色々な新聞や雑誌等で、この度の「弘法の枕石」の引き揚げ及び移設作業についての記事を紹介して頂いた結果、有難いことに、枕石について多面から問い合わせがきている。市道谷子沢大平野線が開通した際には、枕石が展望台に移設されたことで、この展望台を胆沢区の新しい観光の拠点として、様々な行事を盛大に行うことができるだろうと期待している。これを機に、地元の方をはじめ、県外の方々にも沢山来て頂けるようになるものと信じている。そのためにも、「胆沢区愛宕地区振興会」の振興会便りに枕石の記事を載せたり、胆沢区や奥州市の方へも、県内及び県外も含めて、この枕石を多方面に渡ってどんどん発信していくてもらえるように働きかけている。また、若い世代には、これからこの「弘法の枕石」を、大切に次の世代へと伝えていくと願っている。

最後に、長年の地域住民の想いがかなったことに心から安堵するとともに、「弘法の枕石」の引き揚げ及び移設作業に関して、地域住民の方々及び行政の方々、その他協力を頂いた沢山の皆様方に深く御礼申し上げます。

奥州市胆沢区 愛宕地区振興会

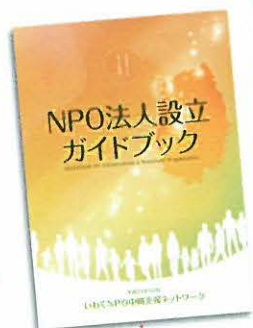
住所：〒023-0403
奥州市胆沢区若柳字愛宕
155番地
TEL：0197-49-2201
FAX：0197-49-2050

岩手県内の中間支援を目的としたNPOのネットワーク「いわて中間支援ネットワーク」から、NPO法人設立のガイドブックを発行しました。

以前より、「NPOの設立を考えているけど、どうしたら設立できるのか要件が複雑で分かりにくい」とか、「定款をつくるのって難しいんじゃない?」という声を相談にのる中間支援組織ではたくさん拾ってきました。そこで、NPO設立をもっとわかりやすく且つ正確に伝えることはできないだろうかということ、で県内中間支援団体が知恵を持ち寄って2012年12月に完成したのが本誌です。

NPO活動交流センターにもあります、センターのホームページからダウンロードできます。

<http://www.aiina.jp/npo/>



NPO法人設立のガイドブックが完成しました。

NPO活動交流センターからのお知らせ

Info.



地域コミュニティやNPO、行政等が協働し、地域課題の解決に取り組む「新しい公共」を推進するため、標記フォーラムを県内4会場で開催します。フォーラムでは、多彩な講師陣による基調講演と、地域で活動しているNPOなどの取組み紹介、意見交換会などを行う予定です。皆さんお誘い合わせのうえ、ご参加ください。

県からのお知らせ

新しい公共推進フォーラム「元気なまちづくりフォーラム」の開催について

Info.

〈開催日時、会場、講師〉

月 日	時 間	会 場	講 師
2/21(木)	13:00～15:30	●大船渡市 カメラホール 〒022-0003 大船渡市盛町字内ノ目4-2	北川 正恭 氏 (早稲田大学)
2/24(日)	13:30～16:00	●アイーナ いわて県民情報交流センター 〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通1-7-1	清水 健司 氏 (岩手大学)
3/3(日)	13:15～16:00	●久慈 グランドホテル 〒028-0051 久慈市川崎町10-15	川北 秀人 氏 (IIHOE)
3/5(火)	13:30～16:00	●奥州市民支援 活動センター 〒023-0801 奥州市水沢区横町2-1 メイプルB1F	鈴木 孝男 氏 (宮城大学)

●主催
岩手県、NPO法人いわてNPOフォーラム21/NPO法人シニアパワーいわて(事業委託法人)
このほか各地域の中間支援NPOが開催に協力

●プログラム
(1) 基調講演 共通テーマ
「地域課題の解決に向けて」
NPOや自治会等のこれからの役割
(2) 活動事例発表
(3) コンプライアンスについて
(4) 意見交換会

●参加費
無料

●参加者
NPO団体、町内会等地域コミュニティ、企業、行政等

●申込み先
NPO法人
いわてNPOフォーラム21
〒020-00023
盛岡市内丸16-15内丸ビル4階
TEL: 019-605-8271
FAX: 019-681-0587
メール: inf21-info@iwate-npo.net

岩手県社会福祉協議会
ボランティア・市民活動センター
(岩手県災害ボランティアセンター)
からのお知らせ

今年もやってます!!
「スノーバスターズ」

Info.

●お問い合わせ先
NPO活動交流センター
盛岡市盛岡駅西通1-7-1
いわて県民情報交流センター
(アイーナ) 6階
TEL: 019-606-1760
URL: <http://www.aiina.jp/npo/index.html>

「いわてNPO中間支援ネットワーク」とは?

NPO団体の中には、「中間支援NPO」と呼ばれる団体があります。「設備や機器、情報などの提供」、「NPO同士、NPOと行政や企業など支援者とのつながりを促進する」、「NPOの価値を社会に活かすための活動」など、各々特徴を持っていますが、共通しているのは、個々のNPOを支援すること。県内には、この中間支援NPO活動をしている団体が各地域にあります。いわて中間支援NPOは、普段は各地域で活動している中間支援NPOが、情報交換や課題解決に向けての取り組みすることを目的として平成20年に設立された任意団体です。平成24年度現在、15の団体で構成されており、NPO活動交流センターが事務局を担っています。

スノーバスターズとは?

岩手県にお住まいの方なら、「スノーバスターズ」という言葉を一度は耳にしたことがあるのではないだろうか?

スノーバスターズは、平成5年に岩手県社協が呼びかけを行い、特に雪が多く降り積もる地域の雪かきボランティアとして、各地域に結成されました。現在、県内13地区にあり、今年で20年目の節目を迎えます!!

スノーバスターズに除雪を依頼できる世帯は、主に一人暮らしのお年寄りや、障がいをお持ちの方で、一人で雪かきをするのが難しい世帯となります。一人暮らしのお年寄りや障がい者にとって、雪かきに訪れるボランティアさんと会話することもまた、楽しみのひとつになっています。雪かきを終えた後の達成感、依頼者からの「ありがたう」という温かい一言に、リピーターも少なくない、と聞きます。

特に雪が多い1～3月頃までが活動時期です。活動の際は地元の隊員と一緒に、主に玄関から道路までの通路の雪かきをお願いしています。なお、服装や手袋・長靴など、準備が必要なものについては「スノーバスターズの標準装備」をご覧ください。

各スノーバスターズの活動日は、主に土・日曜日となりますが、地区によって活動日が異なります。また、活動日以外や、スノーバスターズが組織化されていない市町村では、お隣や近所さん、自治会のご協力が必要です。

スノーバスターズに参加してみたい方、「うちの地域にスノーバスターズはあるの?」という方、スノーバスターズについてもっと詳しく知りたい方は、岩手県社会福祉協議会 ボランティア・市民活

適切な事業運営と 明朗な会計処理の 徹底をお願いします

行政からNPO法人への委託事業で、不適切な経理処理を行った疑いのある事例が新聞等で報道されております。岩手県では過去にいわてNPOセンターの不正経理問題が発生しており、その反省をもとに「NPOを対象に含む事業委託の手續の適正化に関するガイドライン」や「岩手県における「特定非営利活動促進法の運用方針」について」を策定し、その趣旨に沿った適切な運営をお願いしているところです。

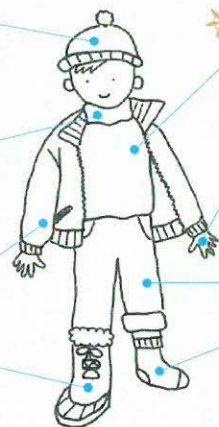
県としては今後NPO法人の信用回復のために、活動紹介の場を増やしていくこととしておりますので、NPO法人におかれましては、団体の目的や活動等を積極的に情報発信し、市民の信頼を得るようご留意願います。特に行政から委託を受け、公金で事業を行っている団体は、明朗な会計処理と一層積極的な情報公開に努めるようお願いいたします。

●お問い合わせ先

岩手県政策地域部NPO・文化国際課
盛岡市内丸10-1
TEL: 019-629-5199
FAX: 019-629-5339
E-mail: FA0042@pref.iwate.jp

★スノーバスターズの標準装備

- 帽子・ヘルメット
頭が濡れない対策は必須。地上での作業は落雪に備えヘルメットを着用してください。
- マフラー・ネックウォーマー
活動中は首元から雪や風が入って冷たくなります。マフラーやタオル、ネックウォーマーなどを着用しましょう。
- 上 着
水に強く、風を通さないものを着用しましょう。ただし、動きやすい長さのものを着ましょう。
- 長 靴
ひざ下までの長いタイプがオススメ。靴底は溝が付いていて、滑りにくいものを着用。



- 下 着
汗を吸いやすく、乾きやすいものを選びましょう。汗をかいた時のために、背中にタオルを入れておくとうれいでしょう。
- 手 袋
水が染み込まない滑りにくいものを選びましょう。(厚すぎると作業しにくいことがあります)
- ズ ボ ン
水に強い素材で、丈が長いものがベスト。
- 靴 下
下着同様、水に強く、乾きやすいものを着用しましょう。長靴と組み合わせて、足先が冷えないような工夫を勧めます。

動センターのホームページ「ずっぱりボランティアいわて」へ、ぜひ一度アクセスを!!

●お問い合わせ先
岩手県社会福祉協議会
ボランティア・市民活動センター
TEL: 019-637-9711
FAX: 019-637-7592
URL: <http://iwate-volunteer.jp/>



左上:スタッフの式又さんと川土さん(左から) 左下:施設内案内図 右:第1展示場の「南部曲がり家」



アジア民族造形館～ アジア文化の源流

築200年の歴史ある南部曲がり家をアジアの展示館として改装し、第一展示棟ではアジア各国の民族衣装や陶器類、玩具などの資料、第二展示棟では寺院の装飾品や龍の編組品、色鮮やかな前掛けなどを展示している。

団体の、活動ノウハウを公開する

活動 なう

[第2回]



「アジア民族造形館」

岩手県野田村 教育委員会事務局
生涯学習文化班 総括主査

小谷地 鉄也 さん

アジア民族造形館創建の由来

昭和60年7月、野田村では朽ち果てていく「南部曲がり家」の有効活用を模索していたところ、アジア民族造形文化研究所・金子重量所長との縁により、アジア諸国の文化と日本文化の接点を探り、アジアへの理解と認識を深める場を実現するため、アジア各国の民族資料を展示する「アジア民族造形館」の創建に踏み出した。施設設備に当たっては、当地に残っていた築200年の南部曲がり家を改修し、日本初のアジア民族文化施設として、昭和61年11月に開館した。館内では、悠久の歴史に育まれたアジア各国の民族資料を展示し、アジア民族の知恵や技術を知ることが出来る。館の敷地内には、南部曲がり家の展示棟の他、タイの少数民族の復元住居がある。

また、平成12年度からは、村の直営施設として、アジア民族文化の発信拠点として運営している。



▶アジア各国の衣装を試着できる。1番人気は中央、韓国の「チマチヨリ」

アジア民族文化展示への想い

まず、築200年を越える南部曲がり家をご覧頂きたい。実際この集落で生活されていた方々の曲がり家であり、他の場所から移築されたものではない。若い人から年配の方まで、幅広くこ



▲第2展示場の「南部曲がり家」

らに來場して頂いており、何度も來られるリピーターの方も多くいらっしゃる。以前は、大型バスでの來場者も多かった。館内の展示物にしても、アジア各国の珍しいものが沢山あり、初めていらっしゃる方には新鮮に見えて喜ばれていた。県内にもこういった、アジアにこだわった展示物がある施設はそうそう無いので、これからも大切にしていきたい。

近隣施設及びNPO法人との連携

これまでも、様々なNPO法人等の協力をいただき展示替えやイベント開催など、ともに頑張ってきた。また、この先500メートル程の所に、同じく南部曲がり家を利用した、喫茶兼宿泊施設「苦屋」がある。こちらにはリピーターも多く、日本全国、国内外からも沢山の人が見られる。「苦屋」とはこれまでもお互いにお客さんを紹介するなど協力してきているので、今後も継続していきたい。



▲「苦屋さん」



▲ご主人夫婦(亮さん、久美子さん)

現在抱える課題

アジア文化の発信拠点として当施設を運営するにあたり、専門的な知識の不足や予算的な問題がある。また、地域とのアクセスなど地理的な問題もあり、観光される方々のニーズに合わなくなっている。古民家は囲炉裏の火を絶やすとすぐに屋根(茅葺)が傷み始めるため、冬季間(12月31日～3月31日)の休業もマイナス要因と考えられる。葺き替えは14、5年位で行わなければならないが、約2000万円の費用がかかる上、材料や職人も減少しているため、今後ますます大変になると思われる。

また、以前は施設内で、手打ちそばや田楽豆腐など、地元の食材でつくる郷土料理を味わえる食事処があったが、現在は残念ながら閉めている。

今後は、色々な面でNPO法人等の協力は必要不可欠なものになると考えている。

今後に向けての抱負

拝観料を払って館内の展示物を見て頂くことも有難いが、景色を見ながら普段の生活と離れてゆっくりとした時間を過ごして頂くだけでも十分に満足して頂けると思う。これからも沢山の方々にいらっしやっってもらえるよう、地域の方々やNPO法人等の協力を頂きながら、皆で地域を盛り上げていきたい。

野田村教育委員会事務局

〒028-8201
岩手県九戸郡野田村大字

野田20-14-2
TEL 0194-78-2936
FAX 0194-78-2158

